

注 意 報

岡 病 防 第 8 号
平成23年 7 月28日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察注意報第 1 号を下記のとおり発表したのを送付します。

平成23年度病虫害発生予察注意報第 1 号

平成23年 7 月28日
岡 山 県

病虫害名 **斑点米カメムシ類** (アカスジカスミカメ等)

1. 発生が予想される地域

県下全域

特に、あきたこまち及びコシヒカリ栽培地帯、山寄りの水田、山間棚田、
イネ科雑草地・休耕田・イタリアンライグラス等牧草地の周辺の水田

2. 発生の蔓延が予想される時期

水稻の出穂期以降

3. 予想される発生量

多

4. 注意報発表の根拠

- (1) 赤磐市の予察灯における 6 月 6 半旬から 7 月 4 半旬までのアカスジカスミカメの誘殺数は747頭で平年(301. 1頭) より多かった(表 1)。
- (2) 7 月21日の県北部巡回調査で、水田周辺のイネ科牧草地のすくい取り調査 (20回振り／ほ場) を行った結果、斑点米の原因となるアカスジカスミカメのほ場当たりのすくい取り虫数は471. 8頭であり、平年 (103. 3頭) に比べて多かった (表 2)。

5. 防除対策

- (1) 斑点米カメムシ類の防除は 2 回必要とされており、主要発生種がアカスジカスミカメである場合は以下の防除時期となる。
 - 1 回目の防除：穂揃期 (圃場全体の80~90%が出穂した状態)
 - 2 回目の防除：1 回目の防除から 7 日後注) ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシなどが主要発生種である場合、1 回目の防除は穂揃期の 3~7 日後(乳熟初期)、2 回目の防除は 1 回目の防除から 7 日後である。
主要発生種がいずれの場合も、その後の発生が多ければ、3 回目の防除を 2 回目の防除から 7 日後に行う。
- (2) 斑点米カメムシ類にとってイネ科植物の穂は餌であり、産卵場所でもあるため、水

田周辺のイネ科植物は除去する。ただし、穂の付いたイネ科植物を水稻の出穂2週間前から3週間後の間に除去すると、斑点米カメムシ類をかえって水田に追いやることになるので避ける。

- (3) 休耕田でイネ科植物が繁茂している場合は、休耕田のカメムシ類を対象とした薬剤防除を行うこともできる(表3)。
- (4) 薬剤防除は農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。水田に農薬を散布した後は、少なくとも7日間は落水・かけ流しをしないようにする(表3)。

6. 防除上の参考事項

- (1) 7月22日の季節予報によると、向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並または多いと予想されており発生を助長する条件ではないものの、高温少雨は本虫の加害や増殖に好適な条件となるので、今後の気象経過に留意する。
- (2) 平成10年以降、主要品種別の2等以下格付け理由の内訳をみると、斑点米カメムシ類を原因とする割合が極早生種のみきたこまち、早生種のコシヒカリで高いため、これらの品種の栽培地帯では防除に万全を期する必要がある。
- (3) 極早生品種、早生品種栽培地帯では出穂期、穂揃期等が斑点米カメムシ類の発生ピークと一致し、被害が出やすい。
- (4) 周辺より出穂の早い水田では集中的に飛来してくる傾向があるので防除の徹底を図る。
- (5) 斑点米カメムシ類は、山間棚田、山寄りの水田、イネ科雑草繁茂地・休耕田・イタリアンライグラス等イネ科牧草地の周辺の水田で発生が多く、特にアカスジカスミカメはイタリアンライグラス等イネ科牧草地で多い。
- (6) 出穂直後から20日後までを加害時期とするアカスジカスミカメは、淡緑色を帯びており、体長が5mm程度と小さく肉眼で確認しにくいいため、本田での発生の把握には捕虫網によるすくい取り調査が必要である。
- (7) 出穂直後から収穫期までの全期間を加害時期とするホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシは、前者の2種が体長10~17mm程度と大きいこと、後者の2種が体長5~7mm程度と小さいものの灰褐色~黒色で見分けやすいことから、本田での発生が肉眼で確認できる。
- (8) 斑点米カメムシ類の発生は、本田の畦畔近く(本田の周縁部)で多く、中央部で少ないとされており、発生密度に偏りがある。よって、すくい取り調査や肉眼による観察は本田の畦畔近くで行う。

表1 赤磐市の予察灯におけるアカスジカスミカメの誘殺数(頭)

	H23	平年値
6月6半旬	158	50.3
7月1半旬	211	69.8
2半旬	239	46.8
3半旬	104	72.8
4半旬	35	61.4
計	747	301.1

表2 イネ科牧草でのすくい取り(20回振)によるアカスジカスミカメの虫数(頭)

	H23	平年値
	471.8	103.3

表3 斑点米カメムシ類の防除に使用する主な薬剤（平成23年7月22日現在）

薬剤名	剤型	農薬使用基準		
		濃度・使用量	使用時期 (収穫前日数)	総使用回数 (当該成分)
トレボン*	DL	3～4kg/10a 3～4kg/10a(休耕田)	収穫7日前まで —	3回以内
	水	2,000倍	収穫21日前まで	
	乳, MC	2,000倍 2,000倍(休耕田)		
	EW	1,000倍 1,000倍(休耕田)	収穫21日前まで —	
MR. ジョーカー	DL	3～4kg/10a 3～4kg/10a(休耕田)	収穫7日前まで —	2回以内
	EW	2,000倍 2,000倍(休耕田)	収穫14日前まで —	
スタークル・ アルバリン	DL	3kg/10a 3kg/10a(休耕田)	収穫7日前まで —	3回以内 (本田)
	粒	3kg/10a	収穫7日前まで	
スタークル豆つぶ	(顆粒) 溶	2,000倍 2,000倍(休耕田)	—	3回以内 (本田)
	(豆粒)	250g/10a	収穫7日前まで	
ダントツ	粒	3～4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内 (本田)
	DL	3～4kg/10a 3～4kg/10a(休耕田)	—	
	溶	4,000倍 4,000倍(休耕田)	収穫7日前まで —	4回以内 3回以内(細)
	70アブル	5,000倍	収穫7日前まで	
ベストガード	DL, 粒	4kg/10a	収穫14日前まで	4回以内
アドマイヤー	DL	4kg/10a 4kg/10a(休耕田)	収穫7日前まで —	2回以内 2回以内(細)
キラップ	DL	3～4kg/10a 4kg/10a(休耕田)	収穫14日前まで —	2回以内
	粒	3kg/10a	収穫14日前まで	
	70アブル	1,000～2,000倍 2,000倍(休耕田)	—	

農薬を使用する前には、必ず農薬ラベルの記載内容を確認する。

※の薬剤は、水産動物に対する危害が発生するおそれのある地域では使用しない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

なお、これまでご活用いただいていたテレホンサービスは、平成22年度をもって終了いたしました。これまで、永きにわたり、多くのご利用を頂きありがとうございました。病害虫発生予察情報は、引き続き、上記岡山県病害虫防除所ホームページをご利用ください。